

都市再生整備計画 事後評価シート
八積駅周辺地区

令和4年3月

千葉県長生村

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県	市町村名	長生村	地区名	八積駅周辺地区			面積	10.6ha		
交付期間	平成30年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	1617.4百万円(※都市再生整備計画未変更)	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 【道路】南口駅前交通広場、地区内道路整備(村道3035・3039号線)、【地域生活基盤施設】防災備蓄倉庫整備、【高次都市施設】地域交流センター整備								
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	新たに追加した事業	基幹事業	ふれあい休憩広場事業(2か所)	単独費にて事業を実施することとなったため		指標1「駅利用者満足度(利便性)」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く					
		提案事業	・【事業活用調査】事後評価分析調査(※都市再生整備計画未変更) ・【まちづくり活動推進事業】まちづくりワークショップ(※都市再生整備計画未変更)	・別の財源により実施したため ・コロナウィルスの影響により住民を集めての会合が困難であったため		・影響なし ・指標1「駅利用者満足度(利便性)」に関連するが、指標及び数値目標は据え置く					
	基幹事業	【地域生活基盤施設】八積駅周辺駐車場整備	八積駅の利用率及び利便性向上のため		「駅利用者の満足度」の最終目標値を当初計画の75%から80%に変更した。						
	提案事業	【地域創造支援事業】地域排水路整備事業	大雨による八積駅周辺の冠水被害防止のため		「駅利用者の満足度」の最終目標値を当初計画の75%から80%に変更した。						
交付期間の変更	当初 変更	平成30年度～令和2年度 -	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	駅利用者満足度(利便性)	%	50	H29	80	R3	-	あり	駅周辺利用者以外に対しても満足度をはかるものであり、事業効果や達成状況をより正確にはかるその他指標を設定したため、計測不能とする。	-
	指標2	交流センター利用者満足度(利便性)	%	45	H29	70	R3	-	あり	交流センター利用者だけの満足度をはかるものであり、長生村における交流センター立地の意義や事業効果をより正確にはかるその他指標を設定したため、計測不能とする。	-
指標3	交流センタークラブ会員数	人	723	H29	830	R3	817	△	あり ●新しい機能を追加する等多世代が交流できる場所として整備したが数値目標には達成しなかった。ただし、コロナウィルスの影響により来場を控えている住民が多いため、従前値と比較すると会員数は約15%増加しており、事業効果はあった。	令和4年6月頃	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	駅周辺の満足度	%	-	-	-	52%	-	村の唯一の駅である八積駅周辺の南口駅前交通広場や村道等の基盤整備を行うことにより、駅周辺の利便性がよくなり、駅周辺の満足度が得られた。	-	
その他の数値指標2	道路利用に対する満足度	%	-	-	-	60%	-	南口駅前交通広場の改良や村道の拡幅及び歩行帯整備により、安全で利用しやすい道路環境の整備が進み、道路利用に対する満足度が得られた。	-		
その他の数値指標3	交流センターに対する満足度	%	-	-	-	39%	-	多世代にわたって交流し、楽しく気軽に利用できる場所が創出され、交流センターに対する満足度が得られた。ただし、コロナウィルスの影響等により未利用者の回答が約8割もあつたため、利用者の回答に限ると72%の満足度を得られた。	-		
4)定性的な効果発現状況	・事後評価のアンケートにて、駅周辺の整備については、交通機能の向上や渋滞の緩和に効果がある等、交流センター整備については、子育て世代に必要な施設であり、気軽に気持ちよく利用できる等の意見があり、満足度が得られている。										
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	-	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	-	-	-	-	
	住民参加プロセス	まちづくりワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	-	-	-	-	-	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	-	-	-	-	-	-	
都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			-	-	-	-	-	●	-		
持続的なまちづくり体制の構築	-	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	-	-	-	-		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	-	-	-	-	-	-	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-	-	-	-	-	-	

様式2-2 地区の概要

八積駅周辺地区(千葉県長生村) 都市再生整備計画事業の成果概要													
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値					
人々が集い、交流し、いつまでも快適に暮らせるまちの実現 目標1: 八積駅周辺地区の駅前空間の整備や駅周辺の利便性向上 目標2: 多くの人々が利用できる公共施設の機能向上による賑わいの創出		駅利用者満足度(利便性)	単位: %	50	H29	80	R3	-	-				
		交流センター利用者満足度(利便性)	単位: %	45	H29	70	R3	-	-				
		交流センタークラブ会員数	単位: 人	723	H29	830	R3	817	R3				
		駅周辺の満足度	単位: %	-	-	-	-	52%	R3				
		道路利用に対する満足度	単位: %	-	-	-	-	60%	R3				
		交流センターに対する満足度	単位: %	-	-	-	-	39%	R3				
地区内道路整備: 村道3035号線[L=500m] 		地区内道路整備: 村道3039号線[L=150m] 		南口駅前交通広場 (1,850m) 						八積駅周辺駐車場整備[7,050m] 		地域交流センター整備[2,397m] 防災備蓄倉庫整備 [41m] 	
まちの課題の変化		<ul style="list-style-type: none"> 南口駅前交通広場は、ラウンドアバウト交差点に改良し、送迎用の一時停車帯を付加したことで、安全で快適な交通広場が整備されたが、八積駅にはバス・タクシーの乗降場がなく、駅を利用するには徒歩または自動車等による送迎となるため、整備した一時停車帯の台数では不足する可能性がある。 幅員5mの村道(3035号線、3039号線)を6mに拡幅したうえで、片側に歩行帯を整備し、安全で快適な道路空間となり、さらに周辺の公共施設をつないだことで、道路ネットワークの充実に寄与している。一方で、公共施設は駅北口周辺に立地しているため、公共施設と駅をつなぐ道路ネットワークが求められている。 老朽化した中央公民館の建て替え及び駅周辺の駐車場不足に対応するため、子育て支援機能を加えた交流センターを新たに駅前へ整備したことで、多世代にわたって交流しながら楽しく過ごせるようになった。 											
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		<ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な道路環境を持続させるため、道路の適正な維持管理に務める。また、交差点に横断歩道等の交通安全施設を設置する等、さらなる安全で安心な道路環境の創出を図る。 地域コミュニティの醸成を図るため、施設やクラブの周知活動の実施や活動内容がより魅力的になるよう更新する等、施設の利用の活性化を図る。また、安心して利用いただける施設として引き続き適正な施設管理を行う。 駅北口と公共施設をつなぐ道路ネットワークの充実のため、駅北口及び北口駅前広場等の整備を行い、北口周辺に立地している公共施設と利便性の高い道路ネットワークの構築を目指す。 											

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		指標2:交流施設の利用者数	第1回の都市再生整備計画の変更において、「指標2:交流センター利用者満足度(利便性)」へ変更し、「指標3:交流センター会員数」を追加した。	交流センター整備の効果測定の確度を高めるため、指標の変更及び追加した。
C. 目標値	●		<ul style="list-style-type: none"> ・指標1:駅利用者満足度(利便性):75% ・指標2:交流施設の利用者数:18,300人 	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1:駅利用者満足度(利便性):80% ・指標2:交流センター利用者満足度:70% ・(追加)指標3:クラブ会員数:830人 	指標1は駅周辺の整備事業(駐車場整備事業、地域排水路整備事業)を追加したため目標値を変更し、指標2及び3は指標の変更に伴い、目標値を設定した。
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	南口駅前交通広場整備事業	41	A=1,000㎡	64	A=1,850㎡	警察等、関係機関と協議した結果、規模の増、工事費の増	指標1に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない	●	-
	地区内道路整備(村道3035号線)	96	L=500m	118	L=500m	地質調査の結果、工法変更が生じたため、工事費の増	指標1に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない	●	-
	地区内道路整備(村道3039号線)	29	L=150m	29	L=150m	なし	-	●	-
地域生活基盤施設	八積駅周辺駐車場整備事業	-	-	46.2	A=7,050㎡	駅周辺の利便性向上のため、第2回計画変更において新規に追加	指標1「駅利用者満足度(利便性)」に関連するため、目標値を当初計画目標値75%から80%に変更	-	●
	防災備蓄倉庫整備	7.8	A=21㎡	26.4	A=41㎡	防災計画の見直しにより備蓄物資が増量したため、面積の増、工事費の増	指標1に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない	●	-
	ふれあい休憩広場	6.2	A=100㎡ 2箇所	-	-	単独費にて事業を実施することとなったため、第2回計画変更において削除	指標1に関連性はあるが、目標及び指標への影響はない	-	-
高次都市施設	地域交流センター整備事業	749.2	A=2,000㎡	1,292.1	A=2,397㎡	利便性向上のため、建物規模の増・工事費の増	建物規模増のため、指標2は「交流施設の利用者数」から「センター利用者満足度」へ変更、指標3「クラブ会員数」を追加	●	-

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし	
指標1	駅利用者満足度(利便性)	%	-	-	-	50	H29	80	R3	モニタリング	-	モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定見込み	-	事後評価	-	-
指標2	交流センター利用者満足度(利便性)	%	-	-	-	45	H29	70	R3	モニタリング	-	モニタリング	-	-	-
										事後評価	確定見込み	-	事後評価	-	-
指標3	交流センタークラブ会員数	人	生涯学習課が計測した令和3年12月末時点でのクラブ会員数を合計する。	-	-	723	H29	830	R3	モニタリング	-	モニタリング	-	●	-
										事後評価	確定見込み	●	817	事後評価	△
指標4										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	駅周辺利用者以外に対しても満足度をはかるものであり、事業効果や達成状況をより正確にはかるその他指標を設定したため、計測不能とする。	-
指標2	交流センター利用者だけの満足度をはかるものであり、長生村における交流センター立地の意義や事業効果をより正確にはかるその他指標を設定したため、計測不能とする。	-
指標3	設定した目標値は上回らなかったが、平成29年度の従前値は上回った。コロナウィルスの影響により、来場を控えている住民が考えられるため、1年以内の達成見込みは「あり」と判断した。	-
指標4	-	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	駅周辺の満足度	%	-	-	-	-	モニタリング		-	村の唯一の駅である八積駅周辺の基盤整備を行うことにより、利便性向上を目指していることから、駅周辺利用者を対象としたアンケートを実施し、住民評価によって、事業効果を説明する。	-
							事後評価	確定 ●	52%		
その他の数値指標2	道路利用に対する満足度	%	-	-	-	-	モニタリング		-	南口駅前交通広場や村道の改良により、安全で利用しやすい道路環境の整備が進んでいることから、駅周辺利用者を対象としたアンケートを実施し、住民評価によって事業効果を説明する。	-
							事後評価	確定 ●	60%		
その他の数値指標3	交流センターに対する満足度	%	-	-	-	-	モニタリング		-	交流センターの整備は、都市再生整備計画の主たる事業であり、多くの人々が利用し交流できる公共施設となることから、全住民を対象としたアンケートを実施し、住民評価によって事業効果を説明する。	-
							事後評価	確定 ●	39%		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

<p>●事後評価アンケートの自由記入欄に以下の意見がある。</p> <p>[駅周辺整備について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送迎用一時停車帯が出来て、以前よりスムーズに通れるようになって大変良い。 ・送迎時間帯の自動車の混雑は比較的解消されている。 ・ラウンドアバウト交差点は、慣れないため使いにくい。 <p>[交流センター整備について]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代にとって必要な場所である。 ・自習室が集中しやすく助かっている。 ・綺麗になり赤ちゃんを連れていきたいと思える場所になった。 ・部屋数が増え、設備も整い綺麗で、バリアフリーで気持ちよく利用できている。 ・友達ができそうな気軽な空間がとても気に入った。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した	-	
	予定したが実施できなかった(理由)	-	
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した	-	
	予定したが実施できなかった(理由)	-	

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくりワークショップ	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した	-	
	予定したが実施できなかった (理由:コロナウイルスの影響により住民を集めての 会合が困難であったため)	●	
-	予定どおり実施した	-	-
	予定はなかったが実施した	-	
	予定したが実施できなかった (理由)	-	

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
-	予定どおり実施した	-	-	-
	予定はなかったが実施した	-	-	
	予定したが実施できなかった (理由)	-	-	

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業「八積駅周辺地区」事後評価庁内検討会	生涯学習課、まちづくり課都市計画係	令和4年3月11日(金)	まちづくり課都市計画係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3		その他指標1		その他指標2		その他指標3	
指標名		交流センタークラブ会員数		駅周辺の満足度		道路利用に対する満足度		交流センターに対する満足度	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	南口駅前交通広場(改良)	-	交流センターでは、これまで中央公民館で長きにわたり活用されてきた機能を保持しながら、以前はなかった機能を追加するなどし、多世代が交流できる場所を整備したが、数値目標には達成しなかった。ただし、コロナウイルスの影響により来場を控えている住民が多くいる中で、従前値と比較すると会員数は約15%増加しており、事業効果はあった。	◎	・村の唯一の駅である八積駅周辺の南口駅前交通広場や村道等の基盤整備を行うことにより、駅周辺の利便性がよくなり、駅周辺の満足度が得られた。	◎	・南口駅前交通広場の改良や村道の拡幅及び歩行帯整備により、安全で利用しやすい道路環境の整備が進み、道路利用に対する満足度が得られた。	-	・交流センターは、駅前の新しい村の顔となり地域の核となる施設として、これまでの中央公民館に、交流拠点機能を付加し整備した。子育て仲間と交流ができる「子育てルーム」や住民が気軽に立ち寄れる「ふれあいルーム」など多世代にわたって交流し、楽しく気軽に利用できる場所が創出され、交流センターに対する満足度が得られた。ただし、コロナウイルスの影響等により未利用者の回答が約8割もあったため、利用者の回答に限定すると72%の満足度を得られた。
	地区内道路整備(村道3035号線)	-		◎					
	地区内道路整備(村道3039号線)	○		◎					
	八積駅周辺駐車場整備	○		○					
	防災備蓄倉庫整備	○		-					
地域交流センター整備事業	◎	-	-						
提案事業	地域排水路整備事業	-	○	○					
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	住民の趣味・好きなことに関わる時間が増えるクラブ・イベント等の実施を支援する。	駅周辺における利便性のさらなる向上のため、方策を検討する。	安全・安心に通行できる道路の維持管理に努める。	誰もが楽しく気軽に利用できる施設とするため、施設の維持管理や運営等を充実させる。 ・(コロナウイルスの影響もあり)アンケート回答者の約8割が未利用者のため、広報活動等を積極的に実施する。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標2								
指標名		駅利用者満足度(利便性)			交流センター利用者満足度(利便性)								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	南口駅前交通広場(改良)	△	従前アンケートは、駅周辺利用者以外に対しても満足度ははかるものであった。事業効果や達成状況をより正確にはかるその他指標を設定したため、計測不能とする。	-	-	従前アンケートは、交流センター利用者のみの満足度ははかるものであった。長生村における交流センター立地の意義や事業効果をより正確にはかるその他指標を設定したため、計測不能とする。	-						
	地区内道路整備(村道3035号線)	△			-								
	地区内道路整備(村道3039号線)	△			-								
	八積駅周辺駐車場整備	—			△								
	防災備蓄倉庫整備	—			△								
地域交流センター整備事業	△												
提案事業	地域排水路整備事業	△											
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	—	—		
------------------	---	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業「八積駅周辺地区」 事後評価庁内検討会	生涯学習課、まちづくり課都市計画係	令和4年3月11日(金)	まちづくり課都市計画係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
八積駅南口交通広場の整備 改善により、安全な駅利用の 実現	駅利用者の車両が無秩序に駐車され、また駅を通過する車両と駅利用者が交錯し、交通安全上危険であったが、ラウンドアバウト交差点に改良し、送迎者用の一時停車帯を付加したことで、安全で快適な交通広場になった。	八積駅にはバス・タクシーの乗降場がなく、駅を利用するには徒歩または自動車等による送迎となるため、整備した一時停車帯の台数では不足する可能性がある。	・駅北口の整備、南口駅前交通広場の一時停車帯及び整備した道路以外へ街灯の増設等の意見や要望が寄せられている。
道路の安全性や駅と公共施設をつなぐ道路ネットワークの充実	幅員5mの村道(3035号線、3039号線)を6mに拡幅し、片側に歩行帯を整備し、安全で快適な道路空間となった。また、村道(3035号線、3039号線)は周辺の公共施設をつないでおり、道路ネットワークの充実に寄与している。	公共施設は駅北口周辺に立地しており、公共施設と駅をつなぐ道路ネットワークが求められている。	
老朽化した公民館施設の建て替え促進した上で、交流活動の場を創出し、市街地の活性化	老朽化した中央公民館の建て替え及び駅周辺の駐車場不足に対応するため、交流センターを新たに駅前へ整備し、子育て支援機能を加えたことで、多世代にわたって交流しながら楽しく過ごせるようになった。	交流センターの出入口を八積駅北口側にも設置したが、駅北口から交流センターまでの道路未整備により未使用なため、道路整備に合わせて活用が必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	南口駅前交通広場や周辺道路の安全性・快適性	・道路の適切な維持管理に務める。 ・整備した道路との交差点部について交通安全対策を実施する。	・横断歩道等、交通安全施設の設置
	地域コミュニティの醸成	・交流センター利用の活性化を図る。 ・交流センターの活性化や広く住民の利用を図るため、当センターの周知を行う。 ・利用者アンケートの実施等により、利用者の要望・意見等を把握し、施設や運営、活動内容等についてより魅力的になるよう更新を行っていく。 ・定期的な維持管理や適切な修繕を行う。	・施設やクラブ、イベント等の充実 ・プロモーション活動
	-	-	-

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	自家用車による駅利用を可能とすることと送迎車両用の一時停車帯拡充	・駅南口に時間貸駐車場を整備し、自家用車による駅利用を可能とするとともに、無料時間を設定することで、送迎車両の一時停車スペースを確保する。	・駅南口駐車場整備事業
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	・駅北口及び北口駅前広場等の整備を行い、北口周辺に立地している公共施設と利便性の高い道路ネットワークを構築する。	・駅北口広場整備事業 ・北口から交流センターまでの道路整備事業
	-	-	-

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・今回の整備で各種道路、交流センター等、基盤整備は完了したが、今後は整備した施設をどう活用していくかが争点となる。計画の目標である、「人々が集い、交流し、いつまでも快適に暮らせるまちの実現」に向けて魅力的なソフト事業等を実施していく必要がある。
 ・北口広場ができ、バス路線が通ることに期待したい。
 ・交流センターの敷地の入口に案内板がなく、また開館時間が日によって異なることがある等、利用促進の強化が必要である。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	駅利用者満足度(利便性)	%	50	H29	80	R3	確定	-	-	あり	-	-	-	-	
							見込み	-	-	なし	-				
指標2	交流センター利用者満足度(利便性)	%	45	H29	70	R3	確定	-	-	あり	-	-	-	-	
							見込み	-	-	なし	-				
指標3	交流センタークラブ会員数	人	723	H29	830	R3	確定	●	817	△	あり	●	令和4年6月頃	令和4年6月頃に生涯学習課が計測したクラブ会員数を合計する。	-
							見込み	-	-	なし	-				
その他の数値指標1	駅周辺の満足度	%	-	-	/	/	確定	●	52%	/	/	-	-	-	
その他の数値指標2	道路利用に対する満足度	%	-	-	/	/	確定	●	60%	/	/	-	-	-	
							見込み	-	-	/	/				
その他の数値指標3	交流センターに対する満足度	%	-	-	/	/	確定	●	39%	/	/	-	-	-	
							見込み	-	-	/	/				



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		アンケートを行う際には、確度の高い効果を得られる内容に精査した上で、実施する必要がある。
	うまく いかなかった点	指標1は駅周辺利用者以外に対しても満足度をはかるものとし、指標2は交流センター利用者だけの満足度をはかるものとしていたため、事業効果や達成状況を的確に把握しにくかった。より正確にはかるその他指標を設定し補完を行った。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		住民参加によるまちづくりは、整備した施設等の利用促進にも有効であると考え、積極的に取り組む。
	うまく いかなかった点	駅前周辺について、まちづくりワークショップの開催を検討していたが、コロナウイルスの影響により住民を集めての会合が困難であったため、実施できなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・都市再生整備計画事業の活用予定：北口周辺において予定しているが、時期未定

・事後評価を予定している地区：なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	村のホームページに掲載	令和4年3月16日～3月23日	令和4年3月16日～3月23日	担当課への郵送、電子メール、直接持参	まちづくり課都市計画係
広報掲載・回覧・個別配布	広報に村のホームページ及びまちづくり課窓口で原案を公表している旨を掲載	令和4年3月号	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	村役場まちづくり課窓口にて縦覧	令和4年3月16日～3月23日	令和4年3月16日～3月23日		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	田辺 善治(下水道審議会委員)、井桁 正昭(建築家)	令和4年3月25日(金)	まちづくり課都市計画係	長生村社会資本整備 総合交付金評価 委員会条例	独自の設置
その他の委員	小高 周一郎				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・計画当初に設定した指標及び数値目標により、成果を評価するものではないかというご指摘があった。 →達成状況をより正確にはかるため、その他指標において代替したことを説明し、理解を得た。
	実施過程の評価	・実施過程の評価は適切であると確認された。
	効果発現要因の整理	・効果発現要因は適切であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表について妥当であると認められた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当に進められたと認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成方法は適切であると確認された。 ・北口広場を整備し、バス路線を計画する。 ・交流センターの利用促進を図ること。
	フォローアップ	・フォローアップ計画は妥当と認められた。
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策の妥当性について確認された。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。